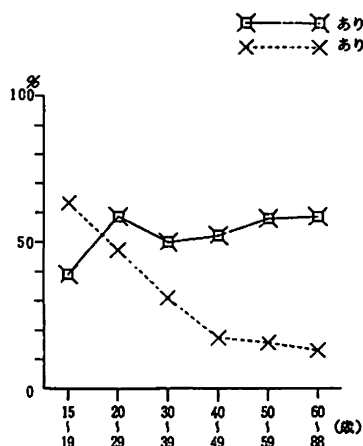
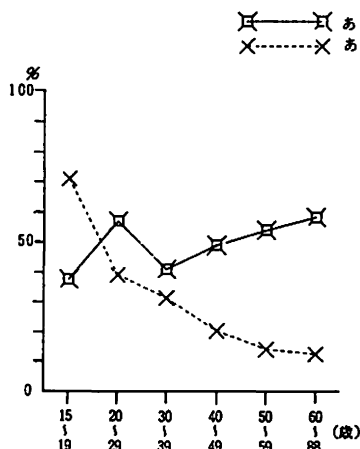


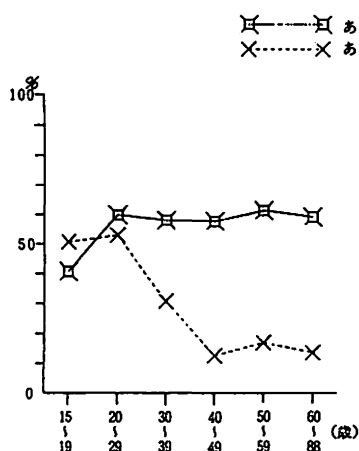
(使用=非常によく;性別=両方)



(使用=非常によく;性別=女)



(使用=非常によく;性別=男)



以上の考察から、新語形をとりいれるのに男女差があつて、つぎの

- (1) 年層でみると、40歳代以上より若いほうが、新しい語形をとりいれる速度がはやく、しかも若い層の中でも10歳代の女性がもっとも新語形に対して適応がはやい。
- (2) 20歳代の女性は、新語形であっても、くだけた場面とか、俗っぽい語感などのイメージをもっている語を避けようとする傾向がみられる。

ということが明らかになった。

この10歳代女性の新語形への適応のはやさは、流行語の受容とも深くかかわってくると考えられる。その関連について調査を深めたいものである。

漢字表記のゆれ

——計る・測る・量る——

篠崎 晃一

1. はじめに

本稿は、文部省科学研究費の補助による特定研究「言語の標準化」の中での、国広哲弥・中本正智グループが分担した「用字・用語法のゆれの言語学的分析とそれらの標準の設定」の研究成果の一部である。

ここでは、第2次調査57項目のうちの漢字表記の項

目から「ハカル」のゆれについて考察していきたい。

2. 調査の概要

調査は東京及びその周辺地区在住者1,000余名を対象に行なった。被調査者の年齢、性別の内訳は次の通りである。

1,037 (100.0%)

全 体	1. 182 (17.6%)	2. 201 (19.4%)	3. 154 (14.9%)	4. 189 (18.2%)	5. 158 (15.2%)	6. 153 (14.8%)
-----	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------

494 (47.6%)

男 性	1. 14.4%	2. 23.7%	3. 16.4%	4. 14.4%	5. 17.8%	6. 13.4%
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

543 (52.4%)

女 性	1. 20.4%	2. 15.5%	3. 13.4%	4. 21.7%	5. 12.9%	6. 16.0%
-----	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

15~19

20~29

30~39

40~49

50~59

60~88 (歳)

調査方法は、各項目のゆれている語形すべてについて、使用状況を次に挙げる分類によって回答してもらった。

1. 聞かないし使わない
2. 聞くが使わない
3. ときどき使う
4. 良く使う
5. 非常に良く使う

つまり、「ハカル」について言えば、「計る」「測る」「量る」の各語形ごとに1~5の中から1つを回答してもらうわけである。さらに、各項目の中で最も共通語としてふさわしいと思う語形を選択してもらって規範意識を調査し、採否のグラフとして処理した。

なお本調査では、上記の回答コードのうち、4.と5.を合計したものを使用頻度として処理してある。

ここでは、次の5項目について、「計る」「測る」「量る」の表記のゆれを考察していく。

- (1) 体の寸法をハカル。〈長さ〉
- (2) 体重をハカル。〈重さ〉
- (3) 面積をハカル。〈面積〉
- (4) 熱をハカル。〈温度〉
- (5) 升で米をハカル。〈体積〉

3. 表記の現状

国語辞書の扱いについてみると、例えば『小学館国語大辞典』(1982年)では次のようになっている。

はかる〔計る・量る・測る・図る・謀る・諮る〕

☐ (計・量・測)物の数量、または時間の度合を一定の単位と比較して確かめる。秤、桁(ます)、ものさし、時計などの計器で測定する。計量、計算する。

(注、☐以下は省略する。)

このように「計る」「測る」「量る」の使い分けには

特に言及していない。『広辞苑 第三版』『岩波国語辞典 第三版』『新明解国語辞典 第三版』『学研国語大辞典』など、大部分の辞書が同様の記述をしているが、『角川国語大辞典』では次のようになっている。

はかる〔計る〕

☐ (多く器具を用いて)数量を知ろうとして調べる。

① 物の重さ・分量などを調べる。

目方を——る。

② (時間・空間に関して)長さ・高さ・深さ・広さ・角度などを調べる。

百メートル競争のタイムを——る。

富士山の高さを——る。

仰角を——る。

③ (数値を用いて)物事の程度を調べる。

濃度を——る。

表記①は「量る」②③は「測る」とも。

(注、☐以下は省略する。)

この場合は、本調査項目の「長さ・面積・温度」に対しては「測る」、重さ・体積に対しては「量る」を用い、それらの上位語として「計る」があるというとらえ方をしている。

また、第80回国語審議会総会(昭和47年6月28日)での「当用漢字改定音訓表」の審議に際し、国語審議会漢字部会が作成し、参考資料として提出した『「異字同訓」の漢字の用法』は同音で意味の近い語が漢字で書かれる場合の慣用上の使い分けの大体を用例で示したものであるが、その中では「計る」「測る」「量る」の用例として次のものが挙げられている。

計る——時間を計る。

測る——水深を測る。標高を測る。距離を測る。

面積を測る。測定器で測る。相手の真意を測る。

量る——目方を量る。升で量る。容積を量る。

このように、辞典類の表記の扱いは、次の3つのタイプに分けることができる。

〔A型〕「計」「測」「量」を並記して、使い分けを示していないもの。

〔B型〕「計る」の下位分類として「測る」「量る」の二語の使い分けを示しているもの。

〔C型〕「計る」「測る」「量る」の三語を別項目とし

て扱い使い分けているもの。

例えば、B型の場合は、「長さ・面積・温度」に対しては「測る」で、「重さ・体積」に対しては「量る」で表記しているが、これらの表記がすべて「計る」で置き換え可能かどうかについては明確にされていない。

4. 調査結果の分析

4.1. 体の寸法をハカル。〈長さ〉

4.1. 使用頻度（全体）

	1. 聞かないし使わない	2. 聞くが使わない	3. ときどき使う	4. 良く使う	5. 非常に良く使う	6. 無回答
計る	176 (17.0%)	231 (22.3%)	293 (28.3%)	226 (21.8%)	107 (10.3%)	4 (0.4%)
測る	132 (12.7%)	217 (20.9%)	304 (29.3%)	237 (22.9%)	143 (13.8%)	4 (0.4%)
量る	619 (59.7%)	293 (28.3%)	89 (8.6%)	21 (2.0%)	7 (0.7%)	8 (0.8%)

4.1. 採否（全体）

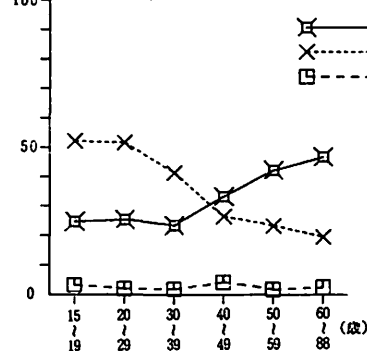
計る	460 (44.4%)
測る	558 (53.8%)
量る	16 (1.5%)
無回答	3 (0.3%)

全体での使用頻度が、「計る」については32.1%、「測る」については36.7%と、二語形の間でゆれ現象を起こしている。採否に関しても、「計る」が44.4%、「測る」が53.8%と勢力が伯仲している。「計測」という類義語の存在も、こうした現象に大きく関与していると考えられる。また、B型の辞典類のように「計る」を上位語とする見方が定着しているとすれば、このような勢力の均衡はむしろ当然である。

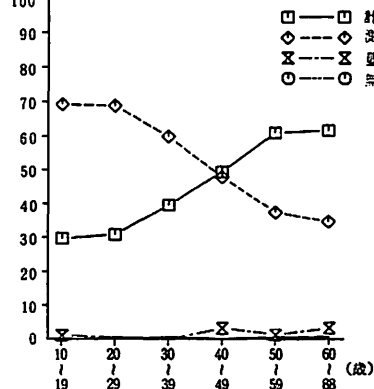
ところが、年齢層別に使用頻度をみると、高年層では「計る」の使用率が高く、低年層では「測る」の使用率が高いという著しい差を示している。つまり、40代で両語の使用勢力が伯仲しており、ここを境に低年層と高年層での使用が逆転している。このことは、単純に「計る」が「測る」の上位語として認知されていることから生じたゆれではないことを示している。

性別でみると、男性の方が女性よりも「計る」から「測る」への変化の速度が速い。

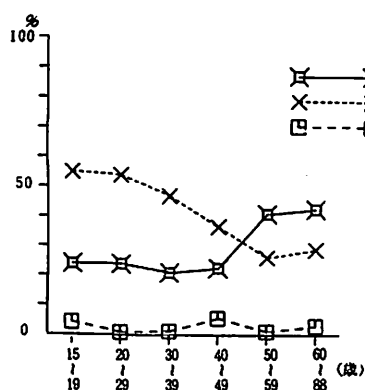
4.1. （使用＝非常に&よく；性別＝両方）



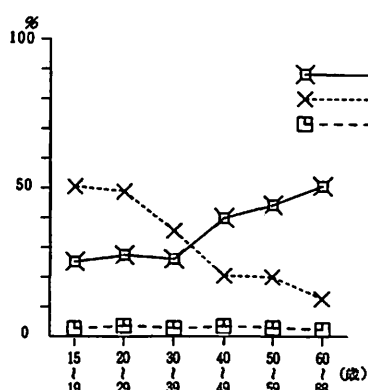
4.1. 採否



4.1. (使用=非常に&よく：性別=男)



4.1. (使用=非常に&よく：性別=女)



4.2. 体重をハカル。〈重さ〉

4.2. 使用頻度 (全体)

	1. 聞かないし 使わない	2. 聞くが 使わない	3. ときどき 使う	4. 良く使う	4. 非常に 良く使う	0. 無回答
計る	265 (25.6%)	275 (26.5%)	284 (27.4%)	153 (14.8%)	58 (5.6%)	2 (0.2%)
測る	308 (29.7%)	279 (26.9%)	251 (24.2%)	140 (13.5%)	57 (5.5%)	2 (0.2%)
量る	241 (23.2%)	221 (21.3%)	253 (24.4%)	196 (18.9%)	122 (11.8%)	4 (0.4%)

4.2. 採否 (全体)

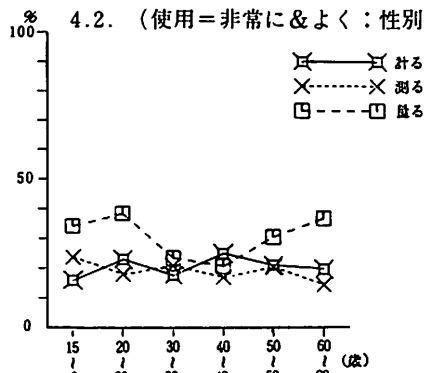
計る	282 (27.2%)
測る	277 (26.7%)
量る	476 (45.9%)
無回答	2 (0.2%)

全体での使用頻度は、「計る」が20.4%、「測る」が19.0%、「量る」が30.7%となっており、「量る」の使用率がやや高いが、三語形がゆれの現象にあるとみてよからう。採否の意識では「量る」を選んだ者が45.9%と、実際の使用に比べてかなり高い数値を示している。また、「量る」については使用しない割合（コード1.2.の合計）も44.5%と高く、使用実態と採否との間に大きなずれがみられる。

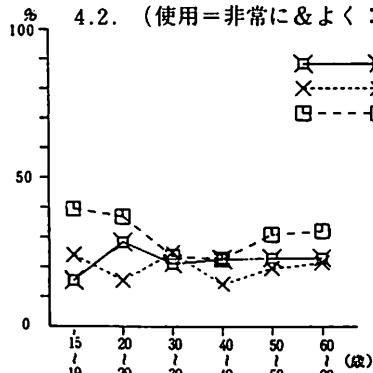
年齢別にみると、すべての年齢層において三語形がゆれ現象を起こしているが、なかでも、30代、40代の中間層でゆれの度合いが大きい。前節でみてきたように、辞典類の扱い（特にB型、C型）では「重さ」に対する表記は「量る」で一致していたが、実際の使用で「測る」が高い比率を示しているのは意外な結果であった。特に、20代から10代へと「計る」「量る」の使用が減少し、「測る」の使用が増加する傾向を示している。今後ますます「量る」と「測る」の使用勢力が伯仲していくことが予想される。「計量」という熟語もあるが、むしろ「体重」に対しては身長と同様「計測」を使用する傾向にあり、「体重測定」ということばからも「測る」への類推が働いたのではないと思われる。

性別に関しては、顕著な差異はみられない。

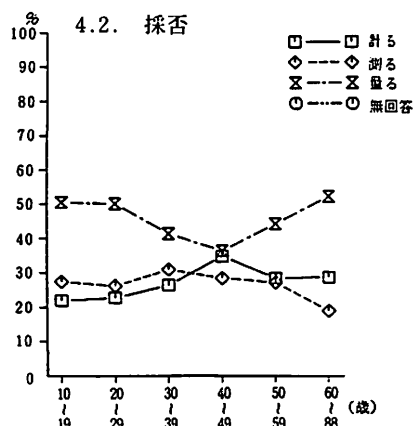
4.2. (使用=非常に&よく：性別=両方)



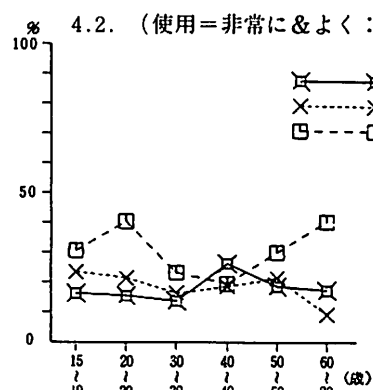
4.2. (使用=非常に&よく：性別=男)



4.2. 採否



4.2. (使用=非常に&よく：性別=女)



4.3. 面積をハカル。〈面積〉

4.3. 使用頻度 (全体)

	1. 聞かないし使わない	2. 聞かが使わない	3. ときどき使う	4. 良く使う	5. 非常に良く使う	0. 無回答
計る	236 (22.8%)	339 (32.7%)	291 (28.1%)	119 (11.5%)	48 (4.6%)	4 (0.4%)
測る	87 (8.4%)	127 (12.2%)	398 (38.4%)	310 (29.9%)	111 (10.7%)	4 (0.4%)
量る	550 (53.0%)	300 (28.9%)	134 (12.9%)	33 (3.2%)	16 (1.5%)	4 (0.4%)

4.3. 採否 (全体)

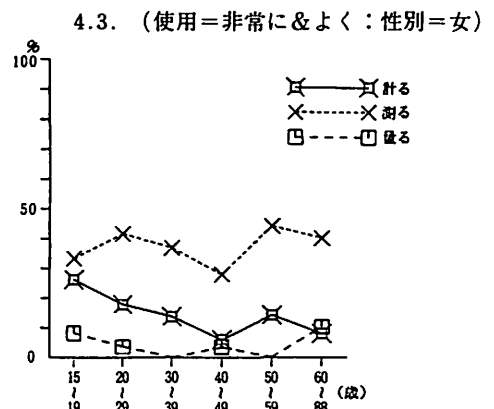
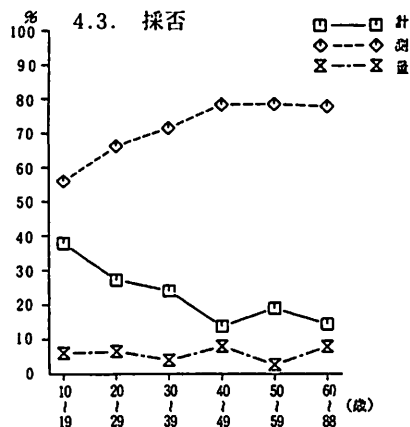
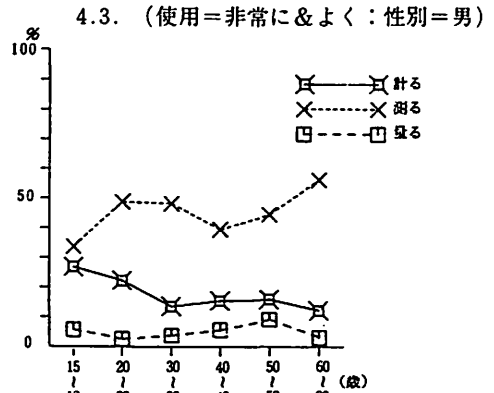
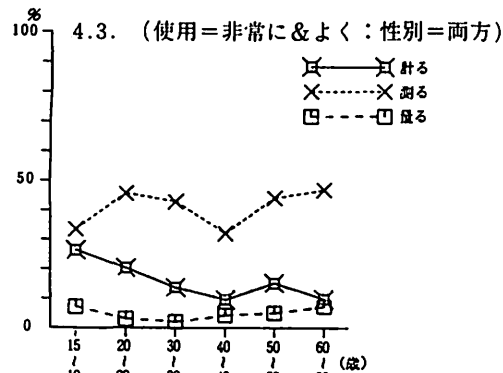
計る	239 (23.0%)
測る	736 (71.0%)
量る	61 (5.9%)
無回答	1 (0.1%)

全体の使用頻度をみると、「測る」が40.6%と、他の二語形に比べて高い数値を示している。採否の意識も「測る」を選んだ者が圧倒的に多く71.0%となっている。

年齢別にみると、高年層では「測る」の使用が優勢であるが、中間層から低年層にかけて「計る」への変化が急速に進み、10代では「計る」と「測る」の使用が拮抗している。採否についてもほぼ同様の変化がみられ、40代以上では「測る」で安定しているが、30代以下では急速に「計る」との拮抗状態に近づきつつある。

性別による使用では著しい差異はみられないが、女

性の方が男性に比べて「計る」への変化が速い。



4.4. 熱をハカル。〈温度〉

4.4. 使用頻度 (全体)

	1. 聞かないし使わない	2. 聞くが使わない	3. ときどき使う	4. 良く使う	5. 非常に良く使う	0. 無回答
計る	46 (4.4%)	59 (5.7%)	252 (24.3%)	417 (40.2%)	259 (25.0%)	4 (0.4%)
測る	436 (42.0%)	293 (28.3%)	196 (18.9%)	76 (7.3%)	30 (2.9%)	6 (0.6%)
量る	798 (77.0%)	166 (16.0%)	52 (5.0%)	7 (0.7%)	6 (0.6%)	8 (0.8%)

4.4. 採否 (全体)

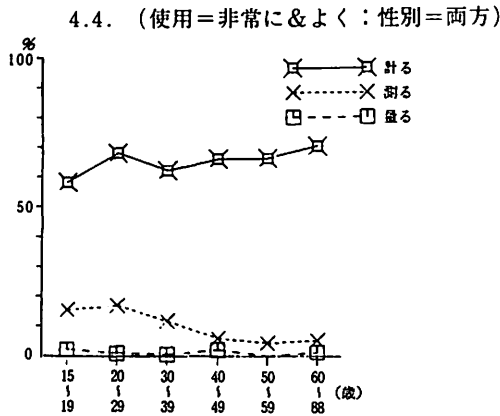
計る	882 (85.1%)
測る	132 (12.7%)
量る	22 (2.1%)
無回答	1 (0.1%)

全体的使用頻度では「計る」が65.2%と安定しており、採否でも85.1%という高い数値を示している。国立国語研究所『現代表記のゆれ』では「熱をハカル」の「ハカル」にどのような表記形式を用いるかという調査を行なっているが、その結果でも「計る」が66.4%と圧倒的に多く、本調査と同様の結果が示されている。

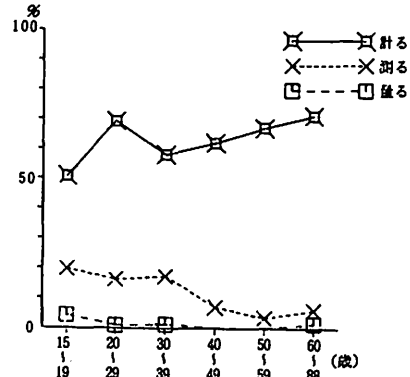
年齢別の使用では、すべての年齢層で「計る」が優勢を保っている。しかし、ゆるやかではあるが中間層から低年層にかけて「計る」と「測る」の勢力が近づ

きつつある。その傾向は採否のグラフで顕著に現れている。

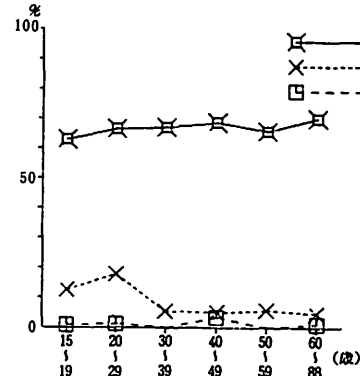
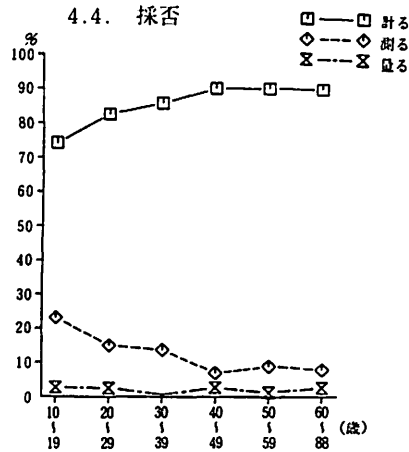
男女別でみると、女性は「計る」で安定しているが、男性では「計る」から「測る」への変化が進みつつある。



4.4. (使用=非常に&よく：性別=男)



4.4. (使用=非常に&よく：性別=女)



4.5. 升で米をハカル。〈体積〉

4.5. 使用頻度 (全体)

	1. 聞かないし使わない	2. 聞くが使わない	3. ときどき使う	4. 良く使う	5. 非常に良く使う	0. 無回答
測る	275 (26.5%)	308 (29.7%)	300 (28.9%)	114 (11.0%)	37 (3.6%)	3 (0.3%)
測る	413 (39.8%)	329 (31.7%)	217 (20.9%)	54 (5.2%)	21 (2.0%)	3 (0.3%)
量る	111 (10.7%)	171 (16.5%)	312 (30.1%)	302 (29.1%)	136 (13.1%)	5 (0.5%)

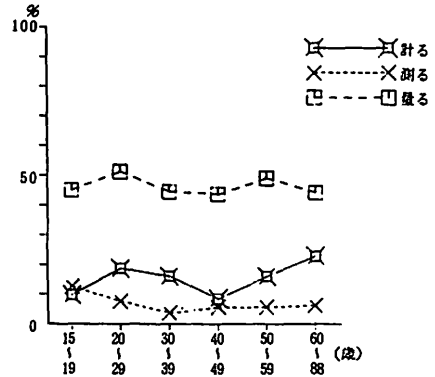
4.5. 採否（全体）

計る	212 (20.4%)
測る	107 (10.3%)
量る	714 (68.9%)
無回答	4 (0.4%)

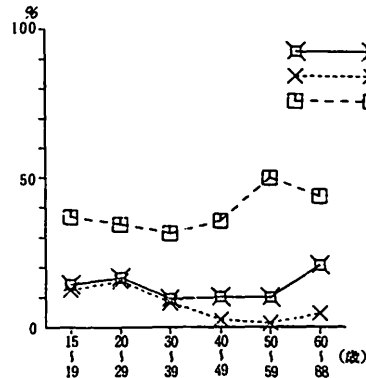
全体の使用頻度では、「量る」が42.2%と、他の二語形に比べて安定しており、採否でも68.9%と高い割合になっている。

年齢層別の4つのグラフをみると、三語形の折れ線がほぼ平行な状態を保っている。これまでみてきた項目の中では最も安定した状態にあるといえよう。

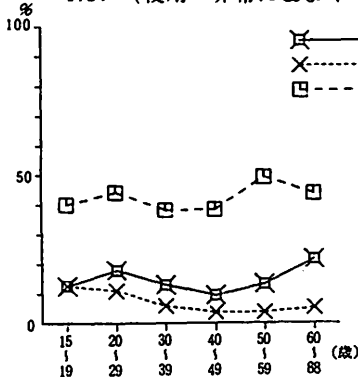
4.5. （使用＝非常に&よく：性別＝男）



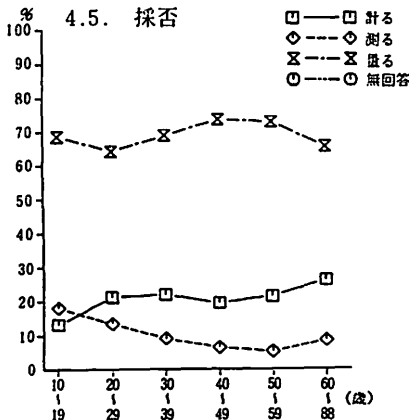
4.5. （使用＝非常に&よく：性別＝女）



4.5. （使用＝非常に&よく：性別＝両方）



4.5. 採否



5. まとめ

以上の結果をまとめると、「温度」に対しては「計る」、「体積」に対しては「量る」の表記が大勢を占めている。「長さ」「面積」は「計る」「測る」が併用されるが、今後の方向としては「測る」に傾きつつある。「重さ」に対しては、使用実態は三語形が併用されているが、採否の意識は「量る」に傾いている。